

令和 5 年 8 月 5 日

# 自主防災ときとう

発行 時任町会自主防災部  
防災部長 佐久間英昭  
函館市時任町 19-13  
電話 51-8429  
(時任町会館内)

## 30年の時を経て 後世に伝えたい津波の記憶！

一九九三年七月十二日  
午後一〇時一七分に北海道南西沖地震が奥尻島を襲って三〇年が経ちました。そこから何を学ぶべきでしょうか。

### ※北海道南西沖地震

M 七・八、震度六が襲ったと言われています。地震発生から三分後には第一波が到達、何度も津波が襲い二九m、三一mと言われています。ほとんどの家庭は、就寝中、就寝に入る時間帯で、停電が起こり、あたりは真っ暗で津波襲来が極めて速く、規模も予想をはるかに上回る巨大地震で、多くの尊い命が犠牲になりました。地割れ・陥没・がけ崩れ・液状化現象、建物の崩壊・火災起こし、人的被害を一瞬にして起こして、日常生活を奪ったと言われています。災害は時と場所を選ばないので、奥尻町では災害で得た教訓を後世に残そうと活動しています。

### ※地震、津波の心構え (1) 大きな地震(津波)

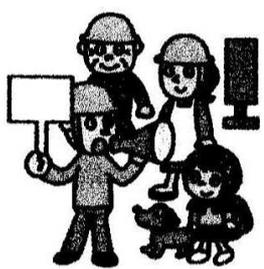
強い揺れ(震度4程度以上)を感じた際や、弱くても長い時間ゆっくりとした揺れを感じた際は、「津波が来るかもかもしれない」ということを念頭に速やかに避難できるような心にとめておきましょう。

### (2) 冷静に、速やかに逃げる

激しい揺れが襲うと、人はパニックに陥ります。しかし揺れは必ず収まります。その間に冷静さを取り戻し、速やかに避難することが命を守る何より大切なことです。

### (3) 原則、徒歩で避難

車の避難で渋滞に陥り、その場から動けず津波にさらわれてしまったケースも少なくありません。徒歩で速やかに避難しましょう。



(答) 復興

### (4) 自分の命が最優先

避難途中で、人命救助に向かい、そのまま一緒に亡くなってしまいうケースも少なくありません。自分自身の安全が確保されてから人命救助に向かいましょう。

(防災ラジオ807より)

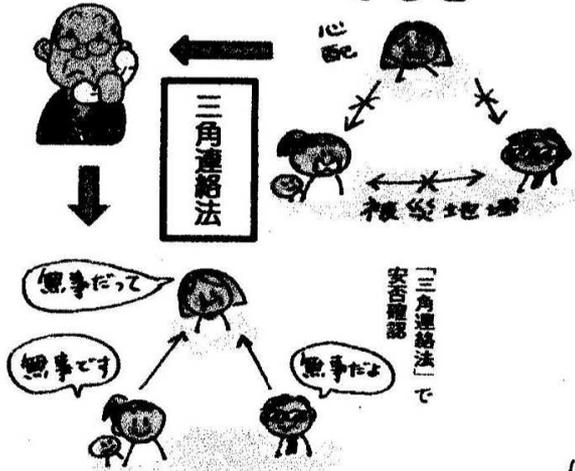
### ※防災、一口アドバイス

#### ○ 非常時は遠くの場所に、三角連絡法の活用を

(1) 地震や大災害の時携帯電話がつかない家族の無事が確認できないそんな時は、電話、メール、災害用伝言ダイヤルと優先順位をつけて連絡すること。

(2) 地震のおきていない地域に電話は、比較的つながりやすいです。連絡がついたその方から、家族の安否を確認してもらう三角連絡法が有効的です。

(3) 携帯電話は電池切れ・紛失・故障があります。突然に備えて「緊急連絡カード」を用意しておきましょう。



逆さにすると何と読む

# 被災